

政治家主導の年金改革

—追悼 今井澄先生—

一橋大学教授 高山憲之

2002年1月10日、東京のルポール麹町において国会議員による懇談会（テーマ「スウェーデンに学ぶ政治家主導の年金改革」）が開催された。スウェーデンでは与野党の枠を超えた政治家主導による年金大改革が1990年代に進められた。その立役者であるB・クェーンベリ議員（年金改革担当大臣）が上記の懇談会では基調講演を行い、その後日本の国会議員24名が活発な討論に臨んだ。この懇談会を契機にしてスウェーデン方式に対する関心が日本では一挙に盛りあがる一方、超党派の国会議員による年金改革への取りくみが日本でも始まったのである。

上記の懇談会をご企画になり、舞台回しにご奔走なされたのは今井澄先生である。今井先生は医療や介護だけでなく年金問題にも並々ならぬご関心を寄せられ、官僚が主導する形で年金の将来が決められていく状況を深くご憂慮なさっていた。年金は国政における最重要課題の1つである。野党の意見を無視したまま強行採択をして、この問題を処理しては将来に禍根を残してしまう。縦割り行政の下で手足を縛られた厚生労働省に年金改革のイニシアティブをとらせても、良い知恵は出てこない。省庁の利害を超えたところで将来への責任を自覚する心ある政治家が与野党を問わず共通の土俵に上り、議論を尽した上で年金改革を主導する。今井先生は生前、このような思いを私に吐露なさっていた。

上記の懇談会から遡ること1年あまり前の2000年12月、臨時国会終了後、今井先生は社会保障事情視察のためドイツ・スウェーデン・イギリスをご訪問なされた。スウェーデンでクェーンベリ議員のお話を承り、意気投合なされたお二方は東京での再会をお誓いになり、それが上記の懇談会として結実したのであった。たまたまこの海外ご視察に私の同行をお許し下さったこともあり、上記の懇談会実現に向け微力ながらご支援をした次第である。

2004年の年金改革に向け、超党派の国会議員による共通の土俵づくりが今、進んでいる。徹底した議論の後に与野党間で基本合意が成立し、政治家主導の年金改革が日本ではじめて断行される。今井澄先生の熱い思いがそのような形で実現することを願ってやまない。

（2002年9月）